

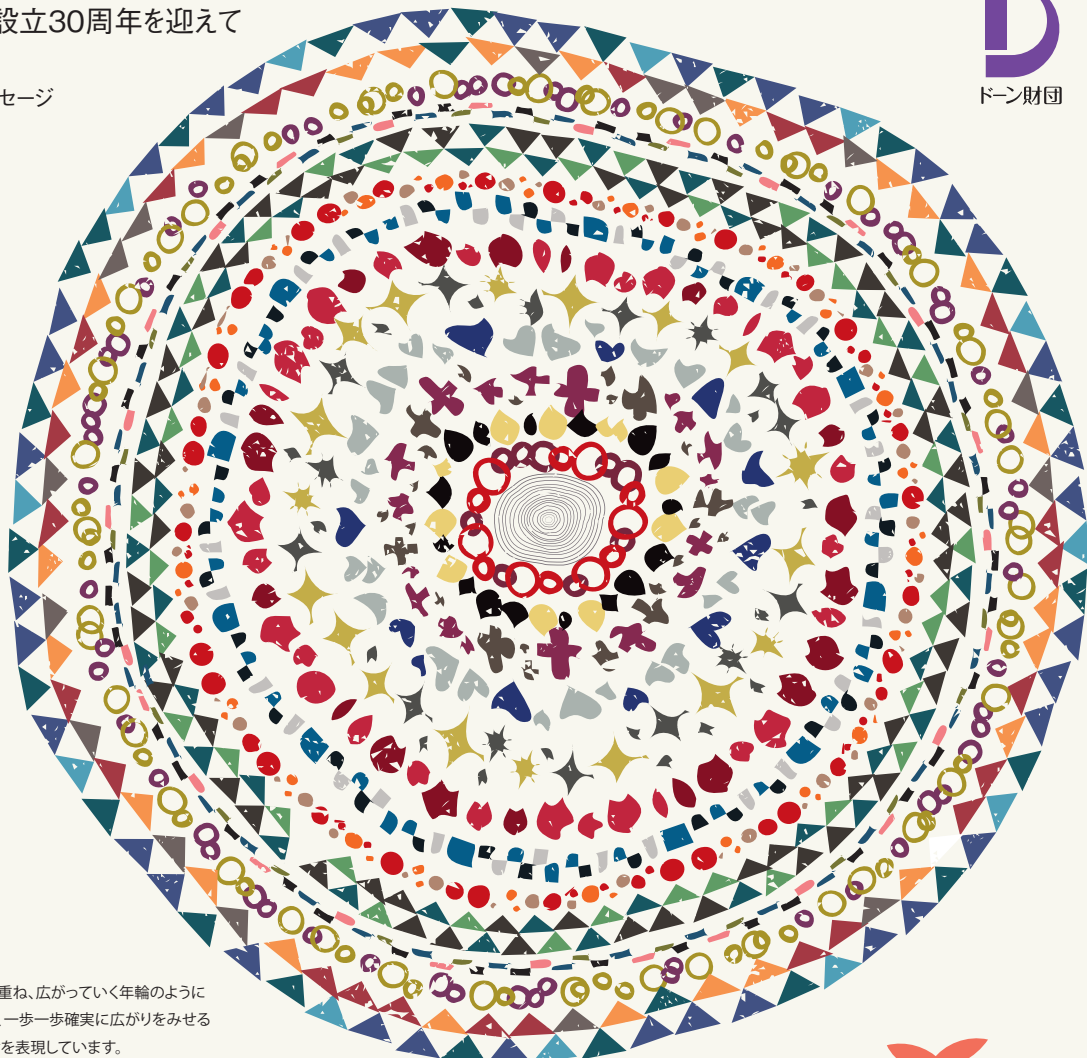
DAWN 通信

Vol. 34
特集号
2024.11

Contents

特集 財団設立30周年を迎えて
財団の歩み
関係者からのメッセージ

D 30th
ドーン財団 ANNIVERSARY



一つひとつの年を積み重ね、広がっていく年輪のように
多様性を尊重しながら、一步一步確実に広がりをみせる
男女共同参画社会の輪を表現しています。

財団設立30周年を迎えて ～小さな種を蒔くように～

代表理事／理事長 畑 律江

令和6(2024)年4月、ドーン財団は設立30周年を迎えました。当財団は発足以来、性別にかかわらず誰もがあらゆる分野に対等に参加・参画できる社会を目指し、ジェンダー問題に関する啓発、情報や文化の収集・発信、女性の悩みに向き合う相談など、多彩な仕事に取り組んできました。

この間、財団のあり方は大きく変わりました。当初は大阪市中央区にできた大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)を管理運営する事業体でしたが、平成20(2008)年には府の行財政改革のもとで廃止の危機に直面しました。しかし存続を願う多くの人々の熱い声に励まされ、平成22(2010)年、府の補助金に頼らない自立化法人として再出発し、現在に至っています。

組織は随分スリムになりました。けれども、自由に活動できるようになったことを前向きにとらえ、広域的・先駆的な新事業にチャレンジしてきました。現在は、内閣府などの行政機関や自治体、大学・学校からの受託事業、指定管理事業、皆様からの寄付金などが重要な財源となっています。

私たちの仕事の多くは、人材・資源・情報などの提供者と、それらを必要とする人々を結ぶ中間支援的な性格を帯びています。対人援助職に就いている人々のための研修企画、オンライン教材の開発・作成、社会貢献を検討する企業と困難を抱える女性への支援をつなぐ役割も果たしています。これらは外からは少し見えにくい仕事かもしれません。しかし同時に、シングルマザーの応援、女子高校生のためのサマースクールなど、社会課題をにらんだ重点的な事業を実施し、個々人の肉声に耳を傾ける姿勢も大切にしています。

ジェンダー平等がまだまだ遠くに感じられる日本社会において、ミッション(使命)を掲げる一般財団法人として、私たちはどんな形で、何をなすべきか。思索しつつ挑戦を続けて参ります。砂地に新鮮な水を絶えず注ぐことで、多様な草花が育つ豊かな土地が生まれるように——。小さくても、私たちはそんな仕事をしていきたいのです。皆様方のご理解・ご助力を心よりお願い申し上げます。

Challenge ドーン財団の 歩み



女性たちの熱い願いを受けて大阪府により設立されたドーンセンターは、令和6(2024)年11月に30周年を迎えました。もともとはセンターを管理運営する事業体として産声をあげたドーン財団も今年で30歳。一時は府の行財政改革により廃止の危機に直面するなど、30年の道のりは決して平坦ではありませんでしたが、多くの人々、団体の後押しを受けてピンチを脱し、平成22(2010)年4月、大阪府補助金ゼロの自立化法人として新たな一歩を踏み出しました。

それから14年余。財政面の厳しさや闘いながらも、組織をスリム化し、培ってきた専門性とネットワークを駆使して、意欲的に新事業に挑んできました。それは使命を持つ財団としての新たなありようを探る日々でもありました。平成28(2016)年には事務所をドーンセンターから近隣の民間ビルに移転させ、社会動向をにらんで、重点的な課題に取り組んでいます。

令和2(2020)年に始まった新型コロナウイルスの流行は、この社会に、貧困、DV、性暴力被害、シングルマザーの失業など、女性を取り巻く多様な困難が根深く横たわっている現実を浮き彫りにしました。令和6(2024)年4月には女性支援新法が施行されています。ソフト、ハード両面で変容してきたドーン財団ですが、こうした課題に取り組む姿勢は変わりません。男女共同参画社会の実現に向け、粘り強く歩み続けています。

2020-2024

30周年までの5年間の
財団の歩み・社会の動き

令和2(2020)年	4月	新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言
	6月	財団代表理事(常務理事)に焼野嘉津人就任
	8月	和泉市男女共同参画啓発業務受託
	10月	内閣府「性暴力、配偶者暴力等被害者支援のためのオンライン研修プログラム等に関する調査研究事業」落札 教材35本を製作
令和3(2021)年	4月	ドーンセンター4期目指定管理業務開始(情報ライブラリー運営担当)
	7月	大阪府「女性のためのコミュニティスペース」事業をドーン事業共同体として受託(運営担当)
令和4(2022)年	4月	内閣府「性犯罪・性暴力被害者のための夜間・休日相談支援体制整備事業」受託
令和5(2023)年	4月	財団事務所を北区内の民間ビルに移転
	9月	内閣府「男性・男児のための性暴力被害者ホットライン」の開設・運営(～12月)
令和6(2024)年	3月	東大阪市立男女共同参画センター3期目指定管理業務終了
	4月	「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」施行
	6月	和泉市男女共同参画センター20周年記念誌刊行
	6月	財団第9代理事長に畑律江就任

1994—2019
財団設立から25周年までの歩み・社会の動き

平成6(1994)年	4月	財団法人大阪府男女協働社会づくり財団設立
	11月	大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)開館
7(1995)年	1月	阪神・淡路大震災
11(1999)年	6月	男女共同参画社会基本法施行
14(2002)年	4月	大阪府男女共同参画推進条例施行
15(2003)年	4月	財団名称を財団法人大阪府男女共同参画推進財団に変更
18(2006)年	4月	NPOとの協働でドーンセンター1期目指定管理業務開始
20(2008)年	4月	大阪府が「財団廃止」の財政再建プログラム案公表
	6月	「平成21年度から財団自立化」に府方針修正
	7月	「財団自立化を1年延期」で府議会在議決着
	8月	女性篤志家からの寄附金で「はなみずき基金(後に募金)」創設
22(2010)年	4月	自立化法人として再出発
23(2011)年	2月	内閣府「性暴力・DV電話相談事業」を受託実施
	3月	東日本大震災
4月	ドーンセンター2期目指定管理業務開始(共同体を構成)	
	東大阪市立男女共同参画センター指定管理業務開始	
24(2012)年	1月	内閣府「東日本大震災被災地相談事業」を受託実施
4月	一般財団法人に移行	
	東大阪市立男女共同参画センター2期目指定管理業務開始	
26(2014)年	4月	財団設立20周年記念誌「ドーンと未来へ」刊行
	9月	財団の愛称を「ドーン財団」と発表
10月	財団設立20周年記念イベント開催	
	開館20周年ドーンフェスティバル2014開催	
27(2015)年	11月	女性活躍推進法施行
	9月	国連でSDGs(ジェンダー平等など持続可能な開発目標)採択
28(2016)年	4月	財団事務所をドーンセンターから民間ビルへ移転
	ドーンセンター3期目指定管理業務開始(共同体を構成)	
6月	財団第8代理事長に段林和江就任	
	7月	刑法一部改正(性犯罪厳罰化)施行
29(2017)年	5月	「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」施行
30(2018)年	4月	東大阪市立男女共同参画センター3期目指定管理業務開始
31(2019)年	10月	設立25周年「DAWN通信」特集号刊行



30周年に寄せて

財団設立30周年に寄せて、長く財団の事業に関わっていただいている方や、この5年間に、財団の事業を通して出会った方々からメッセージをいただきました。

30th

川中 大輔さん

シチズンシップ共育企画代表/龍谷大学社会学部准教授

中間支援組織は現場の2歩先の視野で社会の流れを捉え、1歩先のプログラムを提供すると言われます。ドーン財団の30年はまさにそのようにして、日本におけるジェンダー平等の流れを強めてこられました。その動きを通じて、大切なことを見落としたり見過ごしたりした自分を悔い改める気づきも多くいただきました。これからも私たちが何に目を向け、どのような声に耳を傾けるべきか、どの方向へ変容していくべきかを指し示す働きを担われることを期待しています。

中谷 敬子さん

NPO法人メイカーズクラブ・代表
大阪公立大学工業高等専門学校・教授/女性ライフ・キャリア支援センター副センター長

私が貴財団とご縁を頂いたのは、2008年。3歳から10歳までの4人の息子を育てながら、機械工学研究者として両立に苦闘していた私への、働く女性のためのキャリアセミナー「私の働き方つなぎ方」のコーディネーターのご依頼でした。この場で、同じように奮闘する女性たちと出会い、研究の軸を理工系女性人材のキャリア発達支援に移し、現在に至ります。ドーン財団の実践は、困難な状況にある人達の背中を押してきました。これからも、多くの人々の「その人らしい一歩」を踏み出す支えであり続けてください。

森 未知さん

国立女性教育会館(NWEC)情報課専門職員

私がNWECに勤め始めたのは1995年で、ドーン財団とはほぼ同じ時を過ごしてきました。1999年の男女共同参画社会基本法公布までは、21世紀に向かって男女共同参画が進んでいる実感がありましたが、その後のバックラッシュにより、NWECは施設の統合の検討や事業仕分けがあり、ドーンも財団自立化によってドーンセンターの外に出るという事態となりました。その大変な中でさまざまな受託事業や自主事業で活動の幅を広げてこられたこと、敬服しております。これからも共に、ジェンダー平等な社会の実現を目指して進んでいきましょう。

勝山 暢夫さん

大阪いずみ市民生活協同組合理事長

多様な分野で、男女が対等に参加・参画できる社会をめざして取り組みを行われていることに敬意を表します。「コロナ禍での困難を抱える女性への支援」「シングルマザーのためのセミナー」「女子高校生のためのガールアップセミナー」等々、いずれも地道に女性の背中を押す取り組みにチャレンジされています。当生協も微力ながら、ご協力させていただきます。益々のご発展を祈念しお祝いのことばとさせていただきます。

前田 倫男さん

大阪よどがわ市民生活協同組合組織部統括

貴財団が設立30周年を迎えられますことに、心からお祝いを申し上げます。2年前より、女性のためのコミュニティスペースへの協力として、役職員、組合員へ、スーツ類等の提供を呼びかけ、支援に取り組んできました。シングルマザーをはじめ、様々な困難に直面した女性や子どもたちのために、少しでもお役に立てればと思います。今後一層、ジェンダー格差の解消に向けて、力強く邁進していただくようご祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

宮本 由起代さん

特定非営利活動法人心のサポート・ステーション代表理事

50年前に結婚生活や制度に違和感があり、日々が伏魔殿の生活だと思いました。同じ思いを持つ女性たちとの活動で、会場探しに苦慮しました。ドーンセンターの開設で、やっと女性問題に包括的に取り組む拠点ができたと感動しました。府立ですが府外女性の利用もあり、多くの出会いがありました。今日では、社会成長と共に人々の孤独感が強まっているように思います。個の尊重・繋がりと共存・ジェンダー格差解消への財団の継続した取り組みに期待しています。

ローラ・デールズさん

西オーストラリア大学准教授

私の初来日は1995年の1月、貴財団が生まれた直後でした。その後オーストラリアの大学に進み、日本に留学。インターンシップ生として財団で働きました。この30年を振り返ると、世界に多くの変化が起こったのと同時に、女性のワークライフの困難、性暴力、貧困の問題など、一般の日本の人々の日常生活にもミクロな変化が現れていることがわかります。

財団は、市民のニーズの変化に対応して堅実な働きをしてきました。現代日本とジェンダーを研究している立場から見ると、財団は日本社会のための、なくてはならない宝物になっています。関わられて嬉しいです。



INFORMATION

ドーン財団では、当財団の活動にご賛同いただいた皆様の想いや、社会貢献への想いを寄附金として広く受け付けております。

賛助会

当財団の活動主旨に賛同し、共に歩んでくださるみなさまの入会をお待ちしています。賛助会員のみなさまには、当財団が実施している事業の案内をお届けします。

賛助会員年会費

個人会費	一口	3,000円
団体会費 企業等	一口	10,000円
非営利団体	一口	5,000円
特別会員	一口	100,000円



はなみずき募金

事業趣旨に賛同くださいました団体や企業、個人の皆様からの寄附をお受けしています。お寄せいただいた寄附金は、事業の運営に活用します。賛助会費とは違い、期間などは設けていません。どなたでも500円から受け付けています。

遺贈

財団の趣旨にご賛同いただき、ご自身の財産を男女共同参画社会の推進のために役立てたいという、社会貢献の想いを寄附として受けています。ご寄附については財団寄付金取扱規程に基づき適切に運用させていただきます。

地域における男女共同参画の推進

自治体の
皆さまへ

男女共同参画に関する 講座や研修を コーディネートします!

当財団は、2010年より国の受託事業を通じて、女性に対する暴力被害者等を総合的に支援する体制・人材育成の仕組みを整備していく取組に関わってきました。こうした全国レベルの事業運営で培った財団独自のノウハウとネットワークを活かし、ご依頼いただいた内容に応じて、研修カリキュラムを企画ご提案します。

企画から実施までスムーズに! 効果的に!

ドーン財団の「男女共同参画に関する講座・研修コーディネート事業」

例えば
こんなテーマ

DV相談担当職員研修、女性相談員養成事業、
男女共同参画施策に関する職員のための研修、
デートDV予防啓発講座 など

ちょこっと
サポートも
可能です!



持続可能な開発目標 (SDGs) は、2015年の国連サミットで採択された17の国際社会共通目標 (2030年まで) です。目標5は「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワメントを図る」です。

ただいま、財団の最新情報発信中!



<https://www.dawn-ogef.jp/>

ドーン財団 検索



編集・発行元情報

ドーン財団 (一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団)

〒540-0008 大阪市北区天満1-5-2 トリシマオフィスワンビル803号室

TEL 06-7494-3005 / FAX 06-7494-3006

Email info@dawn-ogef.jp

ドーン財団とは、ドーンセンター (大阪府男女共同参画・青少年センター) を拠点に活動してきたことにちなみ愛称。ドーンセンターとともに、ドーンと進んでいこう、という思いを込め、設立20周年を記念して平成26 (2014) 年度に決めました。ドーンセンターは、平成6 (1994) 年の開館時に大阪府の公募によって選ばれた愛称で、「夜明け」や「物事の始まり」を意味する英語 DAWN と、大阪の女性たちの「ドーンと行こう」という心意気を表しています。